



へきけんニュース

☎0154-44-3291 FAX0154-44-3292

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/

電子メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

《目次》

- ☆ 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター設立御挨拶
- ☆ センター構成員・業務紹介 / 最近の動向から
- ☆ 平成30年度「へき地・小規模校教育研究計画」公募のお知らせ
- ☆ 平成30年度へき地校体験実習協力校一覧

1. 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター設立御挨拶

へき地・小規模校教育研究センター長 玉井 康之

2018年4月に大学組織が大きく再編され、北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター（略称:へき研センター）が新たに設置されました。このセンター長として、私玉井が蛭田先生の後任として着任致しました。全学的にへき地・小規模校教育の意義と実践を高め、全道・全国のへき地・小規模校の担い手を養成していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

北海道は、8割の自治体が過疎地域に指定され、少子化による学校統廃合・小規模校化が進行しています。このへき地・小規模校では、少人数に合わせた学級経営・学習指導・学校運営等の指導方法が求められています。これらの担い手の育成も全道的な課題となっておりますが、教師の世代交代も進む中で、大学と学校現場との連携による教師の育成が重要な課題となっております。

このような北海道の課題に対応するために、北海道教育大学では、全学的にへき地・小規模校教育研究を進め、その成果を活かしながらへき地小規模校に対応できる教師の養成にも務めています。その一環として、各キャンパスにおいてへき地教育論講義やへき地校体験実習等を体系的に発展できるように努めています。

さらに全国的にも少子化が進む中で、北海道教育大学の蓄積が全国的にも注目されています。そのため北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センターが全国の「教育関係共同利用拠点」施設として位置づけられるように文科省に申請しています。これが認定されれば、全国的なFDや学校教育研修の場として展開することになります。

このへき研センターは現在5キャンパス29名の構成員によって運営されていますが、今は新しい運営体制がようやく始動したばかりです。今後さら

に共同研究員を増やすなど、より多くの教職員の叡智を結集して、全学的に発展させていきたいと考えています。教職員の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。



《北海道へき地・複式教育研究連盟総会において
来賓挨拶する玉井センター長 5月11日》

2. 平成30年度 へき地・小規模校教育研究センター構成員の紹介 平成30年6月1日現在

平成30年度のへき研センターを担うセンター員、アドバイザー、担当事務の方々です。よろしくお祈いします。

役職	氏名	所属等	役職	氏名	所属等	
センター長	玉井 康之	副学長	センター員	戸田 竜也	釧路校	
副センター長	川前 あゆみ	釧路校		中川 雅仁		
センター員	池田 考司	札幌校		半澤 礼之		
	今 尚之			森 健一郎		
	○前田 賢次	旭川校		阿部 二郎	函館校	
	渥美 伸彦			五十嵐 靖夫		
	勝本 敦洋			石井 洋		
	小出 高義			○根本 直樹	岩見沢校	
	○坂井 誠亮			○能條 歩		
	芳賀 均			へき地教育アドバイザー	梅木 登喜雄	札幌校
	水上 丈実				田中 和敏	旭川校
	小淵 隆司	事務部		吉田 亨	釧路校	
越川 茂樹	堀北 昌宏		学務部地域連携推進室			
○境 智洋	鹿嶋 利幸		釧路校室			
	白川 聡美					

* ○印は、センター員の各キャンパス代表者

3. へき地・小規模校教育研究センター教育研究活動理念

以下の教育・研究・実践活動を推進します。（センターとして再出発するために、新たに確認し直しました。）

- (1) へき地・小規模校の学校教育実践の発展に資する活動
- (2) へき地・小規模校を取り巻く地域教育の発展に資する活動
- (3) へき地・小規模校に定着・貢献できる教員の養成
- (4) 教育大学におけるへき地教育プログラムの開発と推進
- (5) へき地教育プログラムが教師教育全般に果たす理論的研究と役割の発展
- (6) へき地・小規模校教育の研究・実践成果の全国的な普及

- ・ベリーズ、ホンジュラス、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ウルグアイの6か国9名の研修生が来道しています。
- ・初日は、各国からインセプションレポート発表が行われました。写真は、現地の教育活動と課題を説明している様子です。



≪JICA中南米へき地教育振興コース研修生受入 6月18日から3週間-釧路校-≫

4. 平成30年度「へき地・小規模校教育研究計画」を募集

へき地・小規模校教育研究は、様々な角度からの発展的な研究・教育活動が求められています。このためへき地・小規模校教育研究センターでは、各教員のへき地教育研究・教育活動を発展させ、全体的な成果を蓄積していくために、グループおよび個人で進める研究・教育活動を公募します。この費用で全ての研究費を賄うことはできませんが、研究・教育活動の補足的な費用として位置づけて頂ければ幸いです。多くの皆様のへき地・小規模校研究へのアプローチと研究・教育の発展を期待したいと思います。

なお、この費用を受託した人は、成果を全体で蓄積していくために、次年度の『へき地教育研究』に投稿していただくことが義務になります。この『へき地教育研究』は、戦後70年以上の継続的な発行を行っており、研究成果の蓄積が全国的なへき地教育研究の羅針盤ともなっています。

平成30年度は下記のような方法で募集します。

(1) 研究計画の申請

- * 研究課題は、右の3つの領域に属するものとします。
- * 研究計画書の請求は、へき研事務室（釧路校B109室 内線54-291）までメールでお問い合わせください。
- * 研究計画書には、研究目的・内容を具体的に記入してください。また、「へき地・小規模校教育の発展に資する本研究の意義」を明記してください。
- * 経費の項目は、「備品・消耗品・旅費・その他」です。
- * 申請額の上限は10万円、採択件数は4件程度の予定です。
- * 研究計画書（1部）は、7月17日（火）正午までに、へき研事務室に提出もしくはメール送信してください。

(2) 研究計画の採否

- * 8月上旬を目処に決定します。応募が多い場合には予算減額もしくは採択件数を調整（減数）する場合があります。

(3) 研究成果について

- * 研究成果は、次年度の紀要『へき地教育研究』第74号に投稿することになります。原稿の締め切りは、平成31年6月末日です。
- * なお、へき地教育研究に関する成果普及を目的として、当センターが主催する『へき地フォーラム』にご参加いただき、話題提供いただくことがあります。

(4) 研究計画の申請にあたって

研究計画の申請にあたり、投稿原稿は、へき地・小規模校教育に係る研究論文（学術論文としての体裁を有するもの）、研究ノート（実践報告を含む）、その他研究活動に関するものとします。研究論文、研究ノートは、次の3つの領域に属するものとし、①②③の各領域の関連については例示を参考にしてください。

- ①へき地・小規模校教育に関する基礎的・理論的研究
- ②へき地・小規模校教育に関する実践研究（実践報告を含む）
- ③へき地・小規模校教育にかかわる地域研究

《テーマの例示》

- ◇学習指導・複式指導・少人数学級経営・生徒指導に関する領域
 - ・へき地の社会性を伸ばす学級経営
 - ・へき地の複式学習指導
 - ・へき地の生徒指導
 - ・へき地の少人数指導・特別支援教育
 - ・へき地のICTを活かした教育活動
 - ・へき地の教科教育内容
- ◇学校運営・地域連携に関する領域
 - ・へき地の学校運営
 - ・へき地の学校・地域連携における教育活動
 - ・へき地の体力向上を目指した活動
- ◇特別活動に関する領域
 - ・へき地の特色ある教育活動
 - ・総合的な学習活動
- ◇その他（へき地教育関連分野で編集委員会が認めたもの）

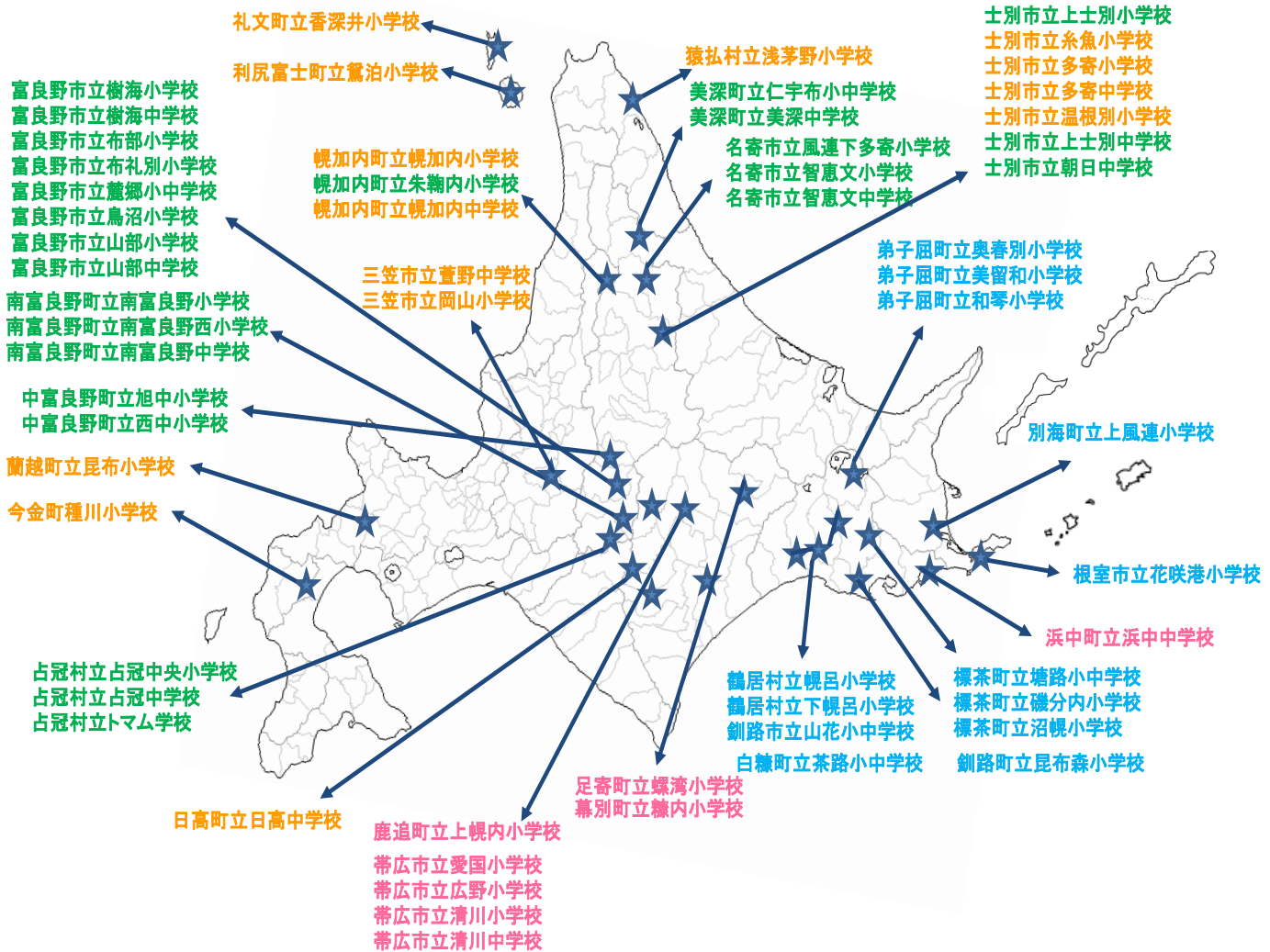
研究課題領域

- ・へき地・小規模校教育に関する基礎的・理論的研究
- ・へき地・小規模校教育に関する実践研究（実践報告を含む）
- ・へき地・小規模校教育にかかわる地域研究

下記に研究テーマを例示しています。

5. 平成30年度「へき地校体験実習」実習協力校一覧

平成30年度は、全道28市町村の60校の実習協力校で、札幌校・旭川校・釧路校の合計132名が受講します。関係の先生方には、巡回指導等でへき地小規模校に訪問いただく機会もありますので、学生指導等どうぞよろしくお願いいたします。



平成30年度 実習協力校 28市町村 60校 実習生合計132名

橙字は夏期 14校
札幌校2・4年生対象

緑字は夏期 25校
旭川校2・4年生対象

ピンク字は夏期 8校
釧路校2年生対象

青字は秋期 13校
釧路校3・4年生対象